

株主のみなさまへ

..... Vol.56

株 主 通 信 第 1 1 6 期

2022年1月1日～2022年12月31日



表紙:2022年7月 ツール・ド・フランス 2022 第4ステージの様子
表紙写真撮影者:Cor Vos





代表取締役社長

島野 泰三

事業の経過および成果

当連結会計年度におきましては、新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大を抑止するための活動制限に緩和が見られたなかで、長期化するウクライナ情勢に伴う資源価格や物価の高騰、各国の中央銀行によるインフレ抑制に向けた金融引き締め措置などにより、世界経済の先行きは不透明な状況となりました。

欧州では、資源エネルギーの供給懸念や価格高騰、高インフレの長期化などを背景にした消費者マインドの低迷により景気減速の懸念が強まりました。

米国では、高インフレに伴う政策金利の引き上げが景気を下押しした一方で、堅調な雇用環境を背景とした個人消費は底堅く推移しました。

中国では、ゼロコロナ政策による経済活動の散発的な制限によって個人消費の持ち直しは緩慢なものとなり、景気回復は力強さを欠きました。

日本では、資源価格の高騰や円安進行に伴う物価の上昇が個人消費を下押ししたものの、ウィズコロナの下、経済活動の正常化も進み、景気は緩やかな持ち直しの兆しを見せました。

このような環境の下、自転車、釣具の需要は落ち着きを見せつつも依然として底堅く、当連結会計年度における売上高は628,909百万円（前年同期比15.1%増）、営業利益は169,158百万円（前年

同期比14.1%増）、経常利益は176,568百万円（前年同期比15.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は128,178百万円（前年同期比10.6%増）となりました。

自転車部品

新型コロナウイルス感染拡大下における世界的な自転車への高い関心は落ち着きを見せたものの、依然として自転車の需要は新型コロナウイルスの感染拡大前を上回る水準で推移しました。完成車の市場在庫は、ハイエンドクラスは低い水準で推移した一方、エントリークラスに続いてミドルクラスの在庫レベルも高まりました。

海外市場において、欧州市場では、自転車に対する高い関心も手伝い、自転車および自転車関連商品の販売は底堅く推移しました。E-BIKEやハイエンドクラスのロードバイクを中心とした完成車在庫に品薄感があったものの、市場在庫はやや高めの水準で推移しました。

北米市場では、自転車需要は底堅かったものの、完成車の供給調整の影響により市場在庫は適正な水準より高めで推移しました。

アジア・中南米市場では、インフレ高進により消費者マインドが冷え込み、自転車への関心が沈静化したものの、中国市場においてはゼロコロナ政策下でロードバイクを中心としたサイクリングに対する関心が高まり、スポーツバイクの市場在庫は低い水準で推移しました。

日本市場においては、スポーツ自転車と電動アシストバイクに対する需要は底堅いものの、一般の完成車の市場在庫は高めの水準で推移しました。

このような市況の下、ロードバイク向け高級モデルの新製品「105」や、電動アシストスポーツバイクコンポーネントSHIMANO STEPSシリーズをはじめ、幅広い製品に対して多くのご注文を頂きました。

この結果、当セグメントの売上高は517,436百万円（前年同期比16.6%増）、営業利益は144,994百万円（前年同期比15.9%増）となりました。

釣具

世界的に高まった釣りへの関心が落ち着きを見せたなかで、一部の地域で釣具に対する旺盛な需要が見られました。

日本市場においては、ファミリー層や初心者層向けの普及価格

帯製品の動きは沈静化した一方で、釣りスタイルに多様化が見られ、中・高価格帯製品の販売は堅調に推移しました。

海外市場においては、北米市場では、釣具の需要は全般的に落ち着きを見せたものの、依然としてソルトウォーター向け製品の需要は底堅く、販売は堅調に推移しました。

欧州市場では、英国においてインフレ高進等の影響を受けて市場に停滞感が漂ったなかで、南欧や東欧域での販売は堅調に推移しました。

アジア市場では、釣具に対する旺盛な需要によるマーケットの伸張から販売は好調に推移しました。中国市場においては、厳しいロックダウン措置の影響がありつつも、制限解除後、釣具の需要は力強い動きを見せました。

豪州市場では、天候不順の影響はあったものの、釣具の需要は底堅く販売は堅調に推移しました。

このような市況の下、新製品のスピニングリール「MIRAVEL」を中心に市場から高い評価を受けるとともに、引き続き、スピニングリール「STELLA」や「ULTEGRA XTE」、電動リール「BEASTMASTER MD」なども好評を博しました。

この結果、当セグメントの売上高は110,993百万円（前年同期比8.4%増）、営業利益は24,163百万円（前年同期比4.5%増）となりました。

その他

当セグメントの売上高は479百万円（前年同期比7.2%増）、営業利益は1百万円（前年同期は営業利益20百万円）となりました。

期末配当のご報告

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、安定的な配当の維持・継続とともに、業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針としております。この基本方針に基づき、今回の期末配当金につきましては、前年同期から25円増配の1株当たり142円50銭の配当とさせていただきます。これにより当期の年間配当額は、前期から25円増額の1株当たり260円となりました。

なお、次期の配当につきましては、1株当たり年間配当額285円（中間配当金142円50銭、期末配当金142円50銭）を予定しております。

今後の見通し

今後の見通しにつきましては、長期化するウクライナ情勢など、地政学リスクの顕在化に伴う供給制約や政治的緊張の高まりからグローバルサプライチェーンの混乱が懸念されるとともに、高インフレの長期化や世界的な金融引き締め政策が景気を下押しする可能性もあります。

欧州では、資源エネルギーの価格高騰や供給制約による経済活動の抑制、長期化する高インフレが景気回復を鈍化させる懸念があります。

米国では、高インフレや政策金利の引き上げによる景気の下押しも懸念されます。

中国では、新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済活動の停滞や、不動産市場の悪化による景気回復の減速が懸念されます。

日本では、経済正常化による景気の持ち直しが期待される一方で、海外の景気下振れや物価上昇を受けた消費者心理の冷え込みにより、景気が左右される可能性があります。

このような経営環境のなか、当社は、自転車や釣具に対する需要動向を注視しつつ、日本発の「開発型デジタル製造業」として、多くの人々に感動していただける「こころ躍る製品」の開発・製造に邁進することはもとより、企業と社会の共有価値を創造し続ける「価値創造企業」として、一步一步、前進していくことが大切であると考えております。経営効率のさらなる向上を図り、より豊かで、新たな自転車文化、釣り文化の創造を促進し、サステナブルな成長を目指してまいります。

その結果、2023年12月期の連結業績予想は以下のとおりいたします。

	2023年12月期	前年同期比
売上高	5,000億円	20.5%減
営業利益	1,050億円	37.9%減
経常利益	1,195億円	32.3%減
親会社株主に 帰属する当期純利益	865億円	32.5%減

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなにとぞ変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年3月

自転車部品事業

世界を広げる 自転車体験を、 もっと身近に。

コンポーネントの新たなスタンダード、
「CUES」誕生。

2023年3月、シマノは新たなコンポーネントシリーズ「CUES(キューズ)」を発売しました。自転車を通じて世界を広げ、新しい場所へと連れていく。ユーザーのライフスタイルをより豊かにするというミッションと、それを叶える性能の実現により、新たなスタンダードを打ち出しました。





「長く愛用してもらうための技術」が生んだ 3倍※の耐久性と滑らかな変速

CUESが対象とするユーザーは「これからスポーツバイクを始める人たち」。DURA-ACEをはじめとする、プロレーサーのために開発されたハイエンドモデルとはターゲットも使用されるシーンも異なります。通勤ルートを颯爽と駆け抜ける、行く当てもなくひとり気ままに走る、都会の喧噪から抜けた土地の空気を味わう——自転車と過ごす日々が人生の楽しみを広げてくれることを、もっと多くの人に感じてほしい。そのために重視したのは、究極のパフォーマンスを可能にする性能ではなく、長く愛用してもらうための性能、つまり「耐久性」と「滑らかな変速」でした。

これら二つの性能をクリアにしたのが、長きにわたる開発の末に誕生したテクノロジー、「LINKGLIDE (リンクグライド)」です。ギアチェンジの衝撃に負けないタフさと、シームレスな変速を叶えるため、

ギアの厚みや歯の形状、チェーンの構造に至るまでを細やかに改良。厳しい環境での試験を幾度も重ね、最終的に従来の3倍※にもおよぶ耐久性と滑らかな変速を実現しました。一人ひとりのユーザーに長く寄り添う、まさにCUESのためのテクノロジーが、シリーズ誕生に大きく寄与したといえます。

創業より自転車部品の開発・製造を続け、世界に数々のスタンダードを打ち出してきたシマノ。そして今年、次なるスタンダードとして、多様なライフスタイルを提案する新たなコンポーネントの歴史が幕を開きます。「何かを始めるきっかけや合図」を意味する「cue」。その言葉には、多くの人々の世界を広げ、新しい場所へと導いていく存在でありたいという、私たちの想いが込められています。

※当社チェーン&スプロケット規格「HYPERGLIDE」と比較して

SHIMANO
CUES | LINKGLIDE

釣具事業

磨きかけた軽量性と低慣性 繊細な操作性と高い感度を実現



Vanquish

スピニングリール・マグナムライトシリーズの最高峰として、多くのアングラーから人気を誇る「ヴァンキッシュ」。ボディやローター、ハンドルなど、すべてのパーツで軽量化を追求するとともに、軽さと相反する剛性や耐久性も兼ね備えた、シマノを代表するリールのひとつです。2023年新たに登場する新ヴァンキッシュは、ただ軽いだけではなく、強靱さの中にしなやかさをまとった真の軽さを追求。全方向に圧倒的なポテンシャルを備えています。極限まで軽量化を目指した「MGLローター」は、リールの回転立上げ時により軽い力で立ち上がり、回転を止める時にはより弱い力で止めることができます。また、“超密巻き”と呼ばれる「インフィニティループ」搭載により、ライン放出抵抗を低減し、遠投も難なくこなせる心地よいキャストフィール、さらには「MGLローター」の低慣性との相乗効果により、感度アップをも実現しました。

さらなる軽量化に加えて、全面的に性能も引き上げた新生ヴァンキッシュ。これからも製品開発に尽力し、限界の向こう側に挑もうとするストイックな釣り人にこれまで経験したことのない世界をお届けします。

3年ぶりの“リアル開催”フィッシングショー オンライン・オフライン 双方で製品をアピール

毎回多くの釣りファンが集い、大きな盛り上がりを見せるフィッシングショー。実に3年ぶりのリアル開催となった今年、シマノは1月にパシフィコ横浜で開催された「釣りフェスティバル 2023」、2月にインテックス大阪で開催された「フィッシングショー OSAKA 2023」にそれぞれ出展しました。感染症対策を施した「釣りフェスティバル」では、お客様と直接顔を合わせながら製品の魅力を伝え、リアルショーの醍醐味ともいえるステージイベントの代わりにオンラインでのライブ配信を行いました。オンライン・オフライン双方を駆使し、大盛況のうちに幕を閉じた2イベント。スタッフ一丸となり、こころ躍る製品の魅力を全力でお伝えしました。





プロジェクトニュース

文化

シマノ2大サイクルイベント 3年ぶりに開催



シマノ主催の2大サイクルイベントである「シマノ・バイカーズフェスティバル」＆「シマノ鈴鹿ロード」。コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2年連続の中止を余儀なくされていましたが、2022年ついに3年ぶりの復活を遂げました。今回は、両大会ともに新たな取り組みにも挑戦。いずれも終始大きな喜びに包まれた二日間となりました。



第30回

2022年7月30日(土)・31日(日)

シマノ・バイカーズフェスティバル

1991年にスタートした日本最大級のマウンテンバイクの祭典、シマノ・バイカーズフェスティバル。南アルプスやハケ岳連峰の広大な自然に囲まれながら、オフロードレースやツーリングを楽しむことができます。今回の参加者は二日間で延べ1,535名にのぼり、初心者から上級者、子どもから大人まで幅広い層のバイカーが一堂に会しました。地元の農作物やパンが並ぶ「バイカーズマルシェ」やプロライダーによるスクーリングなど、レース以外のイベントも好評。レース種目として新たに



「ドロップハンドル90分エンデュランス」を追加するほか、大会回数にちなみ30位の選手を記念表彰するなどユニークな取り組みで会場を賑わせました。



01



02



03



04

①よいいどん!の掛け声とともに、子供たちが走り出す「ミルキー」レース。②新種目「ドロップハンドル90分エンデュランス」では、「ル・マン方式」と呼ばれるスタート方法の初導入や、ルートのショートカット権が手に入るくじ引きなどユニークな取り組みを実施。③イベントの合間に新製品をチェックできる出展社PRブース。④急勾配のオフロードを駆け降りる種目「ダウンヒル」の様子。⑤のどかな里山を巡る「富士見E・スポーツバイクガイドツアー」。

第37回

2022年8月20日(土)・21日(日)

シマノ鈴鹿ロード

「観る人も楽しめるロードレース」というコンセプトのもと、1984年にスタートしたシマノ鈴鹿ロード。三重県・鈴鹿を舞台に、日本最大級のロードレースイベントとして例年多くの参加者がレースや観戦を楽しみます。延べ6,449名が参加した今大会では、これまで「シマノ鈴鹿ロード レースクラシック」のみ行っていたライブ配信を全レースで実施したほか、オンラインからも参加できる「バーチャルシマノ鈴鹿ロード」を開催。自宅でも楽しめる仕組みをつくり、大会の新たな形を試みました。



01



02



03



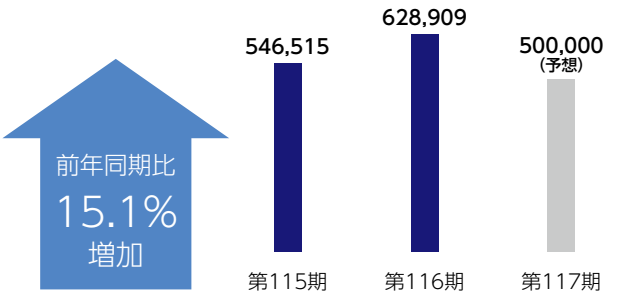
04



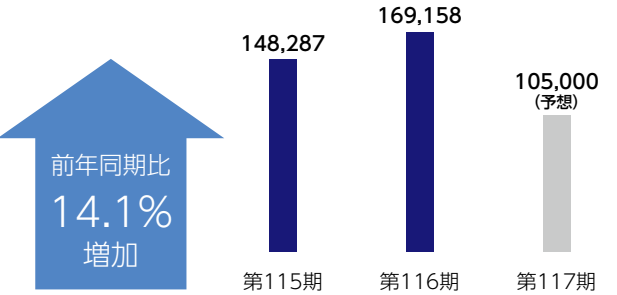
05

①真剣な表情でコースを走る小学生選手たち。②スタートの号砲に合わせて走り出す参加者のみなさん。③それぞれのレベルに合わせて楽しめるのも醍醐味のひとつ。④シマノの新製品を体験できるブース。⑤大会初、オンラインからレースに参加できる「バーチャルシマノ鈴鹿ロード」の様子。

■ 連結売上高



■ 連結営業利益

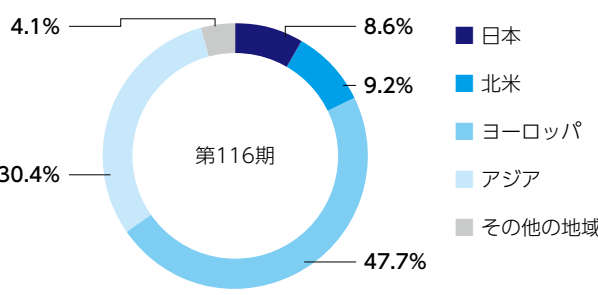


■ 地域別売上高の状況

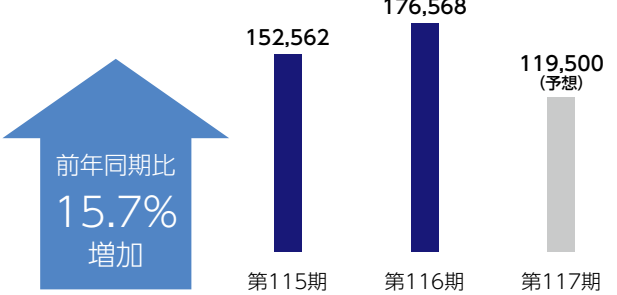
(単位：百万円)

	第115期	第116期
日本	55,181	54,383
北米	49,932	57,643
ヨーロッパ	227,456	299,934
アジア	190,388	191,479
その他の地域	23,556	25,468

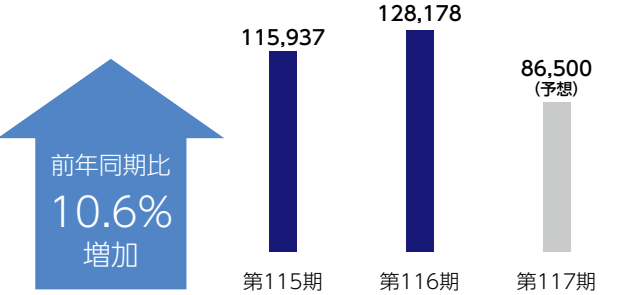
■ 地域別売上高比率



■ 連結経常利益



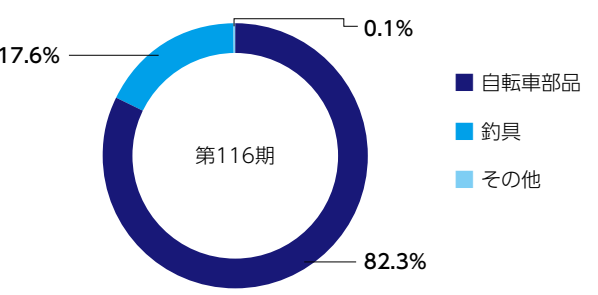
■ 親会社株主に帰属する当期純利益



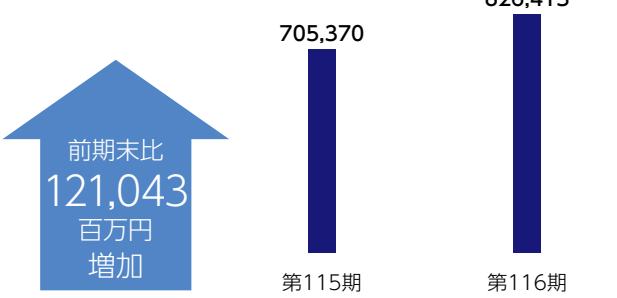
■ セグメント別売上高と営業利益の状況

第116期	売上高 (単位：百万円)	増減率 (前年同期比)	営業利益 (単位：百万円)	増減率 (前年同期比)
自転車部品	517,436	16.6%	144,994	15.9%
釣具	110,993	8.4%	24,163	4.5%
その他	479	7.2%	1	△94.0%

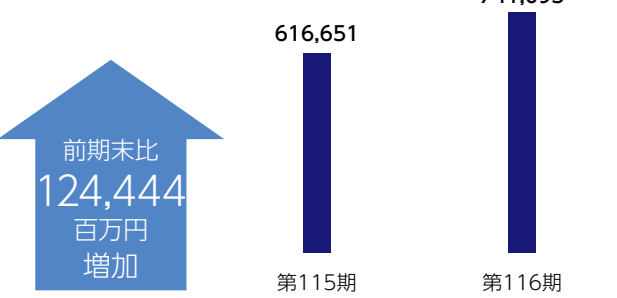
■ セグメント別売上高比率



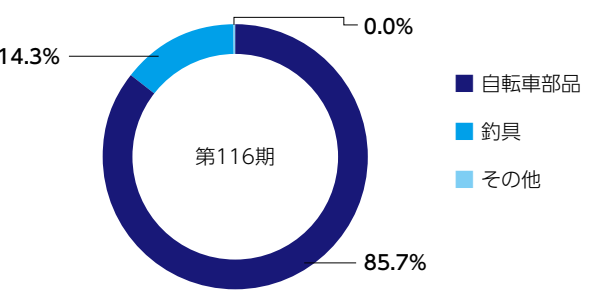
■ 連結総資産



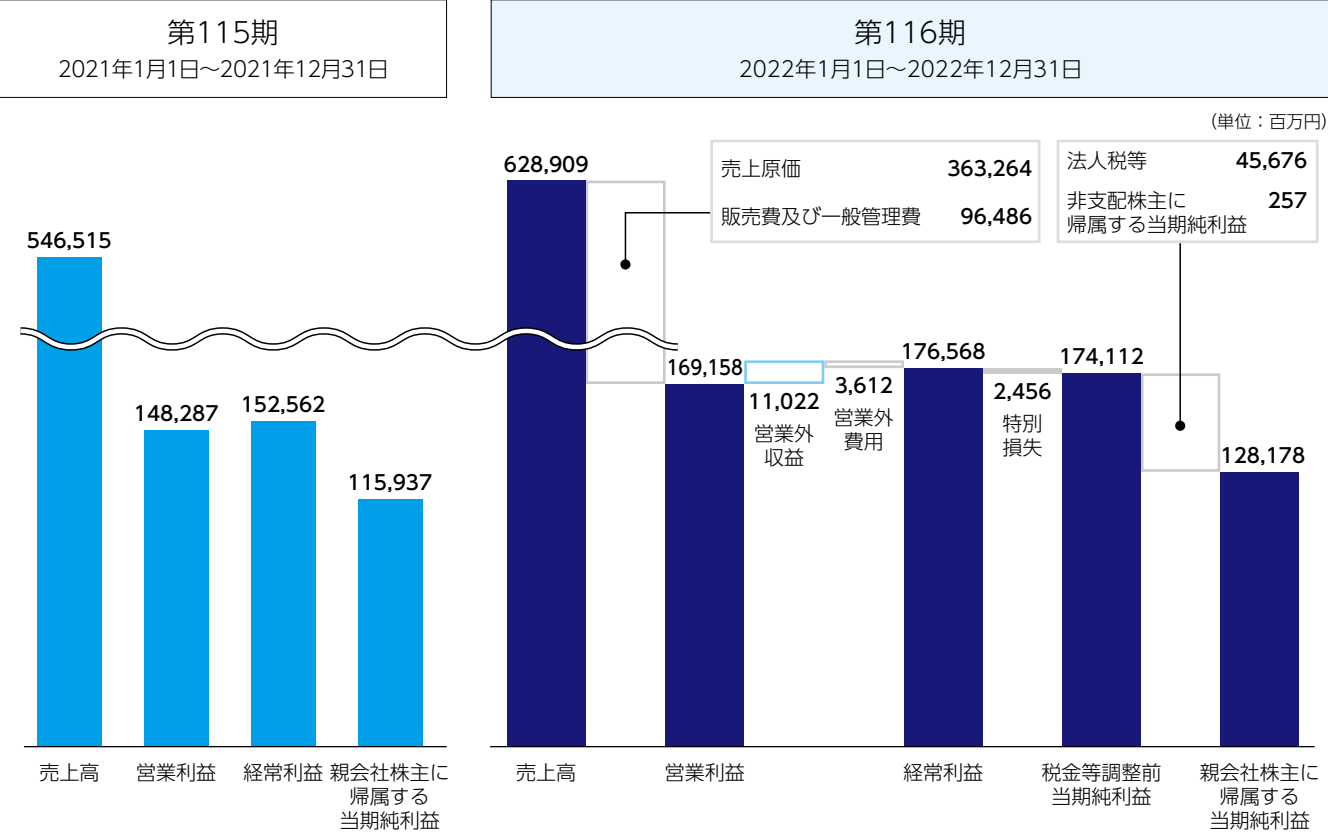
■ 連結純資産



■ セグメント別営業利益比率



■ 連結損益計算書（要約）



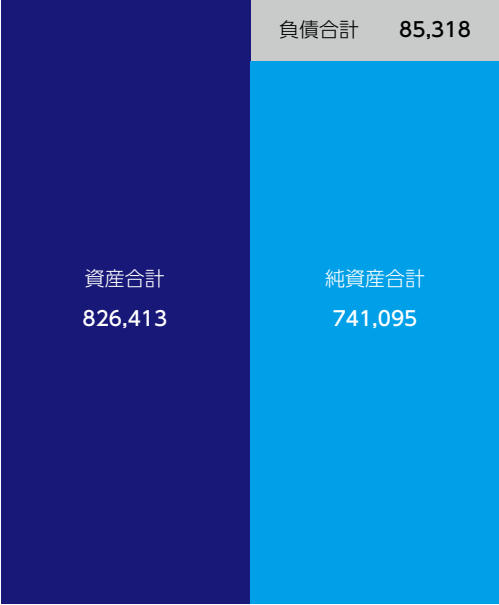
第117期予想（連結）

	業績予想	
売上高	5,000億円	前年同期比 20.5%減
経常利益	1,195億円	前年同期比 32.3%減
親会社株主に帰属する当期純利益	865億円	前年同期比 32.5%減

	セグメント別売上高予想	
自転車部品	3,960億円	前年同期比 23.5%減
釣具	1,035億円	前年同期比 6.8%減
その他	5億円	前年同期比 4.2%増

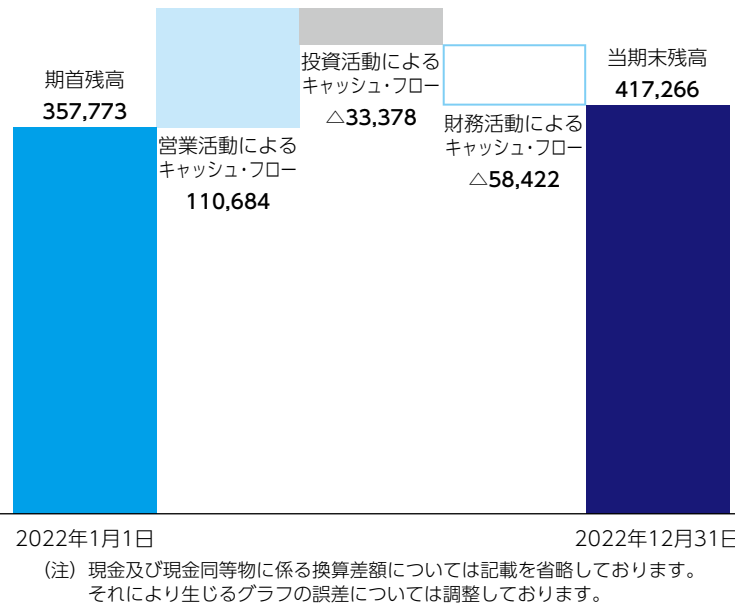
■ 連結貸借対照表（要約）

第116期末 2022年12月31日現在
（単位：百万円）



■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

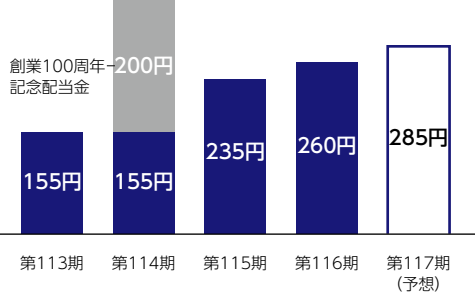
第116期 2022年1月1日～2022年12月31日
（単位：百万円）



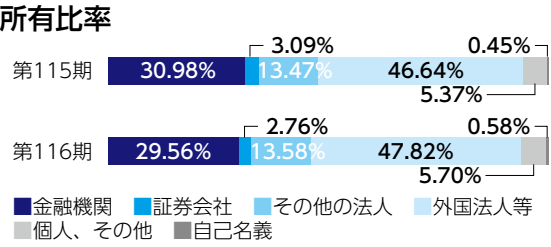
年間配当金の推移

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、安定的な配当の維持・継続とともに、業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針としております。この基本方針に基づき、今回の期末配当金につきましては、前年同期から25円増配の1株当たり142円50銭の配当とさせていただきます。これにより当期の年間配当額は、前期から25円増額の1株当たり260円となりました。

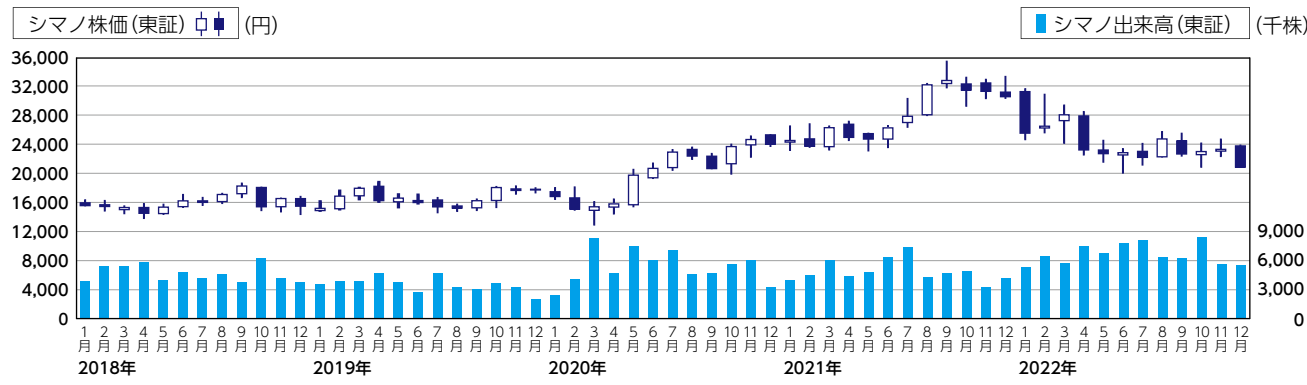
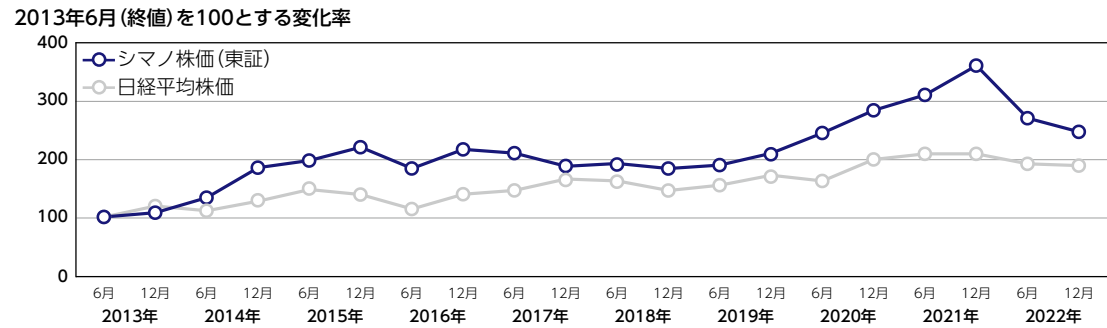
なお、次期の配当につきましては、1株当たり年間配当額285円（中間配当金142円50銭、期末配当金142円50銭）を予定しております。



- 発行可能株式総数 262,400,000株
- 発行済株式の総数 91,160,100株
- 株主数 10,288名
- 単元株式数 100株



株価チャート



大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	10,335	11.40
湊興産株式会社	7,864	8.68
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	5,443	6.01
JP MORGAN CHASE BANK 380055	2,287	2.52
株式会社スリーエス	2,171	2.40
日本生命保険相互会社	1,801	1.99
株式会社りそな銀行	1,711	1.89
PICTET AND CIE (EUROPE) SA, LUXEMBOURG REF: UCITS	1,691	1.87
SMBC日興証券株式会社	1,467	1.62
JP MORGAN CHASE BANK 385632	1,350	1.49

(注) 持株比率は自己株式 (531,034株) を控除して計算しております。

社名	株式会社シマノ
英文社名	SHIMANO INC.
創業年月	1921年2月
設立年月	1940年1月
資本金	35,613百万円
従業員数	1,620名
事業内容	自転車部品、釣具、 ロウイング関連用品等の製造販売
本社	〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地
URL	https://www.shimano.com

役員

代表取締役会長兼CEO	島野 容三	上席執行役員	清谷 欣司
代表取締役社長	島野 泰三	執行役員	大津 智弘
代表取締役副社長	豊嶋 敬	執行役員	大竹 正浩
代表取締役副社長	津崎 祥博	執行役員	吉田 保
常務取締役	チア チン セン	執行役員	金井 琢磨
社外取締役	一條 和生	執行役員	中野 敬介
社外取締役	勝丸 充啓	執行役員	赤川 満
社外取締役	榊原 定征	執行役員	島野 豪三
常勤監査役	平田 義弘	執行役員	島野 勇三
常勤監査役	樽谷 潔		
社外監査役	野末 佳奈子		
社外監査役	橋本 敏彦		

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで	株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	3月	株主名簿管理人	大阪府中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
基準日	期末配当金 毎年12月31日 中間配当金 毎年 6月30日	郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数	100株	電話照会先	☎ 0120-782-031 受付時間 9:00~17:00 (土日休日を除く)
公告方法	電子公告 当社のホームページに掲載いたします。 (https://www.shimano.com/jp/ir/electronic.html) ただし、やむを得ない事由によって電子公告による ことができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。	ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency
		よくあるご質問 (FAQ)	https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal お手続き方法やよくあるご質問は、上記「よくあるご質問 (FAQ)」サイトで確認いただけます。
		証券コード	7309